

国際関係から見た「人間の安全保障」

～齋木昭隆氏（日印協会理事長）・松田純一会長 対談～

グランドデザイン PT 国際チーム委員 安達 桂一（53 期）

グランドデザイン PT 国際チーム委員、国際委員会副委員長 三好 慶（60 期）



左から、齋木理事長、松田会長

1 グランドデザイン PT の設置

当会は、東京弁護士会の将来に向けた具体的な事業計画を構想すべく、本年度、理事者直轄のプロジェクトチームとして、グランドデザイン構想プロジェクトチーム（以下「グランドデザインPT」という）を設置し、さらに、グランドデザインPT内には、ITチームと国際チームを設けている。

そして、国際チームにおいては、大使館、外国商工会議所、海外弁護士会等との連携や交流、外国法事務弁護士と日本法資格弁護士との協力、国際法務に関する情報の会員への提供等の各種施策を検討のうえ、実行している。

当該施策の一環として、公益財団法人日印協会理事長の齋木昭隆氏（以下「齋木理事長」という）と松田純一会長（以下「松田会長」という）の対談を行ったため、次項において、その内容を報告する。

2 齋木理事長と松田会長との対談

齋木理事長は、駐米公使、アジア大洋州局長、インド駐在特命全権大使、外務審議官、外務事務次官を歴任し、日本国の外交において、継続的に重要な役割を果たしてきた。

この対談は、国際情勢、外交戦略や交渉術等について、齋木理事長のお話を伺うことで、その豊富な経験と知見が、当会や弁護士の実務の参考となればと企画されたものである。以下、その内容を一部抜粋して紹介する。

(1) インド駐在特命全権大使時代

松田会長：インド大使として赴任された際のエピソードを教えてくださいませんか。

齋木理事長：私がインドに赴任したのは、東日本大震災が起きる5日前くらいのことでした。大震災が起きたとの報告を受けた後、インドの外務大臣から電話があり、日本に必要なものは何かとのことでしたので、それに対し、飲料水のほか、冬場の東北地方であるので毛布を送ってこないか、と伝えました。

これを受け、インド側が、直ちに、ヒマラヤ山岳地帯の陸軍部隊用の飲料水と毛布を、軍用機で被災地に運んでくれたのを覚えています。

また、その日の夕方から、日本大使館の通用口にインドの方々が列を為して寄付をしてくれまして、当時の日本円で3億円くらい集まったことも覚えています。

(2) 外交戦略と交渉術

松田会長：実際の外交官として、外交交渉、交渉の戦略をどのように立案し、また実行されてきたのでしょうか。

齋木理事長：私たち外交官からすると、戦略というのは、その国、例えば日本の国益をどうやって確保するかという、長期的な考え方です。そして次に、その考え方に立って、具体的にどの国とどう



齋木理事長

いう形で連携をしていけば戦略の実現に役立つだろうという発想に繋がるわけですが、それが戦術だと思います。

今はどの国も、アメリカでさえも、一国でその国益を実現することはできないため、どの国とパートナーシップを結ぶことが国益に繋がるかと考えています。

例えば、日米同盟もそういう意味があり、軍事的な面に加え、経済的にも、一緒に貿易や投資を拡大していくということが、長期的に両国の繁栄に繋がっています。戦略と戦術というのはまさにそういう面を持っている、というのが私の理解です。

松田会長：外交官の交渉術において、問題解決へのアプローチにはどのような特徴があるのでしょうか。

齋木理事長：弁護士の方々が日々案件に取り組み、解決に向かって努力されているその姿は、やはり人権を守り正義を実現するという理念に基づくものだと思います。そして、このキーワード、人権を守り正義を実現するというのは、国際社会においても通用する言葉だと思います。

だから、この点については、私は、外交官の世界にも、弁護士の世界にも共通しているのではないかと思います。私たち外交官も、人権のために、あるいは正義のために、国益をいかにして最善のものとして実現するかという、その意識を常に持って外交交渉を行っています。

(3) 「人間の安全保障」

松田会長：もし齋木さんが東京弁護士会の会長をお引き受けいただいたら、どんなことを仰るのか、皆さん聞き



松田会長

たくてしょうがないだろうと思います。

齋木理事長：とても私にはそんなことができる能力もありませんし、何と申し上げたらいいかわかりませんが、例えば、お住いの近くで、外国人がいらっしゃるときにこの人たちは日本の

社会で暮らしている中で幸せなのかどうか、ということを考えていただければと思います。

やはり法を通じて正義を実現する、人権を守る、という弁護士の一番大きな使命が、果たしてそういった外国人との間でも実現できているのか、というところが非常に大事なポイントだと思います。

政府は、国の安全保障のために一生懸命に外交手段を尽くすわけですが、「人間の安全保障」という言葉があり、これはそれぞれの人の人権に関わる話なのです。

ですから、ぜひ法曹界の皆様方にも、「人間の安全保障」をどうやって実現することができるか、近隣の外国人がどういう立場におられるかということも念頭に置きながら、彼らの幸せのために何ができるかということをお考えいただければと思います。

* * *

以上、紙面の都合上、対談内容の一部を抜粋し紹介したが、対談自体は、1時間以上にわたって行われ、近時の国際情勢から、外交戦略、交渉術に至るまで、大変充実した、示唆に富む内容であった。

対談全編の動画は、当会のウェブサイトに掲載しているため、是非ご視聴されたい*。

* https://www.toben.or.jp/known/iinkai/kokusai/news/post_7.html